

第3回北東アジアOSS推進フォーラム 議長声明

2004年12月3日 韓国・ソウル市にて

2004年4月3日に北京において日本・中国・韓国（以後「日中韓」という）のIT担当局長が署名したメモランダムと、同時開催された第1回北東アジアOSS推進フォーラムの成果を受け、日中韓各国でオープン・ソース・ソフトウェア（以後「OSS」という）を推進する代表者は、日中韓のOSS推進の状況を確認し、日中韓の今後の協力に関する共通認識を得、2004年7月28日開催の札幌会合において共同でワーキンググループ（以後「WGという」）を設置し、共同で運営することに合意した。

北東アジアOSS推進フォーラムは2004年12月2日、WGワークショップを開催し、OSSのそれぞれの分野における具体的な日中韓協力計画を決定した。各WGは詳細な協力項目について議論し、次のとおり計画を実施することに合意した。

- WG1 .

- 1) 次の技術分野において協力する。
 - デスクトップLinux
 - Linuxとその他のOSSのベンチマーク評価
 - オペレーティングシステムのセキュリティ
- 2) 次の3分野において評価を実施し、結果を共有する。
 - 中国 - デスクトップLinux
 - 日本 - Linuxとその他のOSSのベンチマーク評価
 - 韓国 - オペレーティングシステムのセキュリティ
- 3) 評価の結果に基づき、協力開発の対象と方法の議論を継続する。
- 4) 進捗確認のために3ヶ月毎に情報交換を実施する。

- WG2 .

- 1) 本WGは、調査とコンテストのための2つのタスクフォース（以後「TF」という）を設置する。
- 2) TF1は、OSSの教育と研修に関する目的、手法、範囲、成果共有の方法等の調査の枠組みを定める。また、本TFは「貢献者」とその計測手法を定義し、貢献者の増加のための手段を講ずる。
- 3) TF2は2005年北京フォーラムへの準備としてOSSコンテストの計画を開始する。
- 4) WG2憲章を制定した。

- WG3 .

- 1) WG 3 憲章を制定した。
- 2) WG 3 の指示書(directive)を作成するドラフティングコミッティを設置することを決定した。
- 3) 次の領域について短期活動項目を定義した。
インプットメソッド、標準化のための人材の育成、組込みLinux、Webデータのインターオペラビリティ

上記の項目を推進するため、各WGはそれぞれの活動計画を2005年第1四半期内に決定し、それについて3ヶ国で情報交換する。

北東アジアOSS推進フォーラムは今後のフォーラムを原則として1年に1度開催することとした。

第4回北東アジアOSS推進フォーラムを2005年8月に中国で開催する。具体的日程は主催国により変更されることがある。

日中韓の代表者は、第4回北東アジアOSS推進フォーラムに向けて、各WGでの積極的な成果が得られるよう協力し、国際的なOSS推進に対し、さらなる貢献を継続することを確認した。

韓国OSS推進フォーラム
代表幹事
イ・ヨンテ